

ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム

第 3 回オンライン交流会報告書

作成日：2026/2/2

1. オンライン交流会の概要と詳細

(ア) 全体概要

日時	令和 8 年 1 月 21 日（水）13:00～14:30
場所	Zoom
参加人数	72 ※参加者人数は最も参加者人数が多かった時間帯であり、交流会等による途中の増減は含まない
参加対象者	ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム会員 ※基本的には会員向けの交流会としておりますが、非会員企業にもご参加いただきました

- ※ 交流会の目的・背景については[報道発表](#)をご参照ください。
- ※ 第 2 回オンライン交流会の報告書は[こちら](#)よりご確認ください。

(イ) 交流会詳細

本交流会では、前半にプラットフォーム（以下、「PF」という。）会員によるネイチャーポジティブ（以下、「NP」という。）関連プロジェクトや取組・技術の紹介が行われ、後半には 5 名程度の参加者ごとに分かれて、各グループで参加者同士の交流が行われた。

各プログラムの詳細およびタイムスケジュールは下表のとおり。

プログラム詳細	時間
① 挨拶（環境省生物多様性主流化室：細田）	4 分
② 環境省からのお知らせ「PF の使い方」について（環境省生物多様性主流化室：吉村）	3 分
③ 埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォーム「埼玉県ネイチャーポジティブ推進分科会」のプロジェクト説明・質疑応答（埼玉県みどり自然課：福山様） ■ 埼玉県におけるネイチャーポジティブ実現に向けた取組促進のためのスキーム紹介 ■ NP 推進分科会のプロジェクト創出へのプロセスや今後の方向性の共有 等	12 分
④ 八千代エンジニアリング株式会社の NP 事業説明・質疑応答（株式会社八千代エンジニアリング：霜山様） ■ 水収支解析により水資源量を見える化するソリューション「水の地図」の紹介 ■ ウォーターポジティブ達成に向けた実際の活用事例や支援内容の共有 等	12 分
⑤ 富士通株式会社の NP 事業説明・質疑応答（富士通株式会社：権藤様） ■ 海洋デジタルツインを活用した技術の紹介 ■ 宇和島市と協働して実施したブルークレジット認証における活用事例の共有 等	12 分
⑥ 株式会社ヴォンエルフの NP 事業説明・質疑応答（株式会社ヴォンエルフ：中山様） ■ NP 取組の推進と成果可視化の必要性に関する説明 ■ ランドスケープの視点を取り入れたサステナブル認証制度と活用事例の紹介 等	12 分
⑦ クロストークセッション：連携・協働の可能性について	20 分

2. 全体振り返り

(ア) アンケート結果サマリ

登壇内容やクロストークセッションの有用性、プログラム全体に対する満足度、今後関心度の高いテーマや交流方法等について、イベント後にアンケートを通じて参加者の意見を収集した。回収数は 29 名であり、初回参加者は 17 名、2 回目以上の参加者は 12 名であった。

交流会全体の満足度は、「非常に満足」「満足」と回答した方が約 9 割を占め、第 2 回と同様に満足度の高い結果となった（図 1 参照）。参加有無という切り口で満足度に関する分析を行ったところ、初回参加者だけではなく過去の交流会に参加された方の満足度も高く、複数回参加する意義が伺える交流会となった。参加者からは「多様な属性の企業・組織による NP 取組紹介が参考になった」「社外との交流機会があることで、悩みの共有や、議論につながった」「参加者間の対話を通じて、意識啓発や学びが得られた」といった肯定的な意見が多数寄せられた。参加目的に関する設問においても、「企業や地域の取組・技術について知りたかった」「今後の連携や協業のきっかけを探したかった」を選択された方が全体の約 7 割を占めており、本イベントが情報収集やネットワーキングの場として高い関心を集めていたことが分かった。

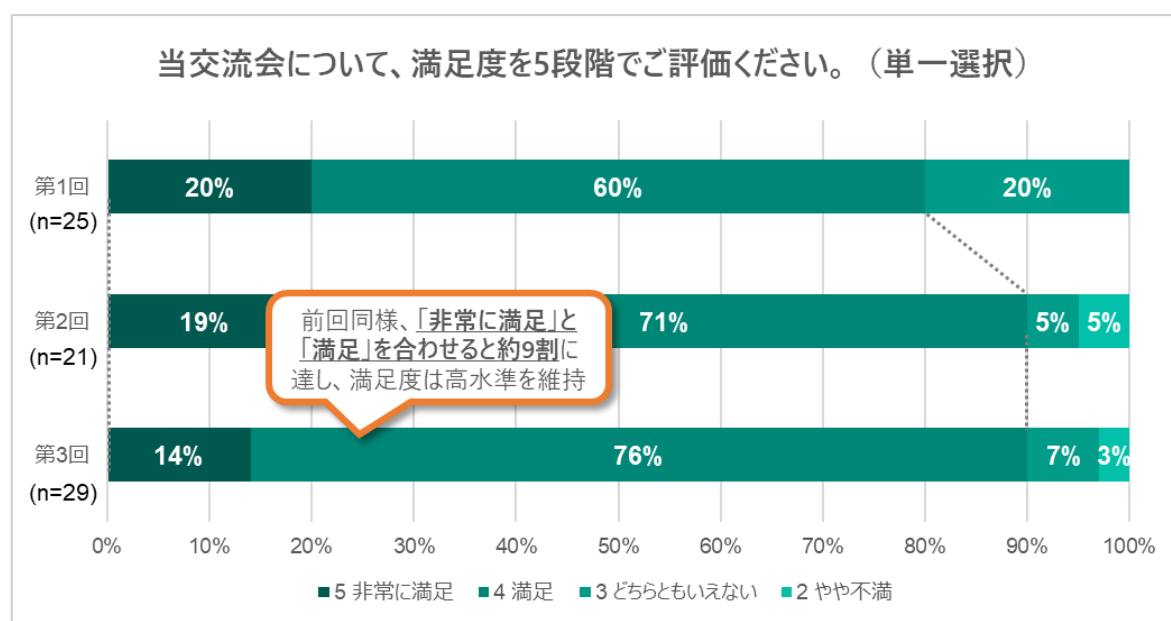


図 1：全体の満足度比較

プロジェクトオーナーによるプロジェクト紹介、NPE ソリューション・パートナーズ会員企業の事業紹介についても約 7 割の方が関心を示しており、有意義な情報収集の機会としてお役立ていただいたことがうかがえる。また、「どちらとも言えない」と回答した方からも、「興味深い発表であり、自社との関係性を検討するきっかけとなった」「今後の適用に向けて、具体的な導入方法を考えていきたい」といった意見が寄せられた。

クロストークセッションについても、約 7 割の参加者が関心を寄せており、過去の交流会と同様に高い評価を得ている。

参加者からは「NP の取組を実際に進めている企業の方から直面している課題を聞くことができた」「これまでかわりのなかった分野の話が参考となった」など、交流が有意義であることを評価する意見があった。一方で、「同業他社が多く協働・連携の機会を考えることは難しかった」といった意見もあったため、参加者属性による満足度の差が一定程度みられた。また、アンケート回答率が 40%程度のため、参加者半数程度の意見を確認できておらず、アンケートの協力については引き続き呼びかけていきたい。

今年度は残すところ第 4 回交流会の 1 回となったが、これまでと同様のプログラム内容に加えて、環境省からの案内事項を追加し、拡大版で開催予定である。

来年度については、地域・セクター等を設定して開催する等、アンケートを通じて皆様からいただいた御意見を踏まえてプログラム等も検討したいと考えている。ぜひ最終回においてのアンケートにご協力いただきたい。

(イ) クロストークセッションサマリ

前回同様、交流会クロストークセッションでは、「連携・協働の可能性について」をテーマに、NP 関連取組の推進に向けてどのようなステークホルダーとどのように連携・協働できるかについて意見交換が行われた。参加者からは、自社や団体が直面している課題や、その解決に向けた連携の意義、必要となる資源や具体的な連携先像などについて多様な視点で議論が展開された。例えば、事業活動と自然資本とのつながり、その維持管理に対するインセンティブの在り方、情報の可視化の重要性、実践段階での具体的なメリットの提示などに対する認識が共有されたグループもあった。

また、NP の取組を検討し始めている企業の担当者のご参加も一定程度あり、情報収集や他団体の事例紹介への関心が高いことが特徴的であった。交流テーマが抽象的で難しく感じるという声も聞かれたが、参加者同士の連絡先や情報交換等のネットワークづくりをきっかけに、具体的な協働の可能性を探る動きも見られた。今後は、異なる業種や事業分野の参加者が課題やニーズを積極的に共有し合うことで、より実効性のある連携や協働の形を模索していくことが期待される。

以上